



長久保由貴  
臨床検査技師

に役立っている。  
同院検査部の長久保由貴  
臨床検査技師によると、機  
器は肺がんの遺伝子変異の  
中で代表的な46種類をま

やまなし  
医療最前線  
ゲムを追う  
県立中央病院から

〈273〉

患者のがん組織に起きて  
いる遺伝子変異を調べ、効  
果がある薬を探す「がんゲ  
ノム医療」。山梨県立中央  
病院は肺がんの遺伝子変異  
を一度にまとめて検査でき  
る機器を全国の医療機関の  
中で先駆けて導入し、治療

とめて調べることができ  
る。同院は保険適用となっ  
た2019年末に取り入れ  
た。

導入前は外部の検査機関

に依頼し、可能性が高そう  
な遺伝子変異を1種類ずつ  
調べていたが、特定に至る  
までに時間がかかっていた。  
採取した組織が少なけ

れば検査に出すことも難し  
かったという。自前の機器  
導入によって3日ほどで結  
果が分かるようになった。  
がんゲノム医療の課題と

## 遺伝子変異 まとめて検査

# 肺がん治療薬迅速に特定

が検査を受け、4割ほどに  
治療薬が見つかった。  
検査は肺がんと診断さ  
れ、手術による治療が難し  
い進行がん患者を対象に行  
われる。長久保さんから臨床  
検査技師は、気管支鏡を使  
って患者から採取された米  
粒ほどの大きさのがん組織  
から、遺伝子変異の特定を  
進めている。



肺がんの遺伝子変異を調べる検査機器。全国に先駆けて導入した  
＝甲府・県立中央病院

しては、遺伝子変異が分か  
つても治療薬が限られるこ  
とが挙げられている。標準  
治療を終えたか、希少がん  
などで標準治療がない患者  
らを対象にした検査では、  
薬にたどり着ける人は1割  
程度にとどまると言われて  
いる。

肺がんは薬の開発が進ん  
でいる領域で、既に7種類  
の遺伝子変異に対して効果

が期待される分子標的薬が  
登場し、今後も拡大するこ  
とが見込まれている。同院  
ではこれまでに約300人

機器の進歩で自動化され  
た検査が増える中、肺がん  
の遺伝子変異を調べる検査  
は、手作業による複雑な工  
程を必要とするPCR法を  
駆使することもあり、緊張  
感があるという。長久保さ  
んは「速さと正確さを常に  
心掛けながら検査を進めて  
いる」と話している。

医療の世界で広がりを見  
せるがんゲノム医療の現在  
と未来について紹介する。  
Ⅱ第2、4木曜日に掲載  
します。